

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						コースのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問（コース・専門分野）の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。						
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)						
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語（独仏中など）を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。
専門分野のカリキュラム												
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期							
11053	日本の近代文学	近代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2、3	*		◎			◎	○	○	
11054	日本の現代文学	現代文学作品の表現に注目し、「なにが」「どのように」書かれているか意識した読解ができる。	2、3	*		◎			◎	○	○	
11031	古典と古典学	・日本古典文学の代表的な古典がどのように古典として認知されたかを知る。 ・古典学の成果を踏まえて、新たな古典的作品がどのように創造されたかを知る。	2、3		*	◎		○	◎	○	○	
11032	日本語学概説A	・日本語学の基本的なものの考え方を知る。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を身に付ける。	2、3	*		○		◎	◎	○		
11033	日本語学概説B	・日本語学の基本的なものの考え方を知る。 ・日本語の諸特徴に関する基礎的知識を身に付ける。	2、3	*		○		◎	◎	○		
41946	日本の伝統芸能	・日本の伝統芸能の形成の歴史、大成後の展開、継承・保存の問題を概観するための基礎知識を獲得する。	2、3	*		◎		○	◎	○	○	
41943	古典文学研究法	・古代・中世の日本古典文学についての研究・享受の歴史を踏まえた研究法を身に付ける。 ・文学作品を「書いてあるとおりに読む」ための基本的な方法を獲得する。	2、3、4		*	◎		○	◎	○	○	
41944	近代文学研究法	・近代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。	2、3、4		*	◎		◎	○	○		
41945	現代文学研究法	・現代文学を解釈するための研究法に触れ、それらの知見を活用して自らの解釈を導き出せる。	2、3、4		*	◎		◎	○	○		
41906	日本語研究法	・日本語の諸側面に関する調査、考察を進めるための基本的な方法と知識を身に付ける。	2、3、4	*		◎		○	◎	◎	○	
41969	古典文学史	・古代・中世・近世の日本文学史についての基礎的事項を理解する。 ・文学とその周辺事象との関わりについて理解を深める。	2、3	*		◎		○	◎	○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						コースのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問（コース・専門分野）の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。						
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）						
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語（独仏中など）を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。	複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。	ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。	討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。	原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。
専門分野のカリキュラム												
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期							
41970	近代文学史	・近代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接することができる。	2, 3	*		◎		○	◎	○	○	
41971	現代文学史	・現代の文学史に精通し、数多くの代表的作品に接することができる。	2, 3		*	◎		○	◎	○	○	
41911	日本語の歴史	・日本語の歴史に関する基礎知識、言語の歴史を扱う方法論を身に付け、日本語の歴史の諸問題について理解する。	2, 3, 4		*	◎		○	◎	○		
41912	日本語学特殊講義A	・日本語学の個々のテーマに関する研究の実際を知り、その研究成果を通して、日本語、言語に対する理解を深める。	2, 3	*		○		◎	◎	○		
41913	日本語学特殊講義B	・日本語学の個々のテーマに関する研究の実際を知り、その研究成果を通して、日本語、言語に対する理解を深める。	3, 4	*		○		◎	◎	○		
41914	日本語研究講義	・日本語研究の最前線を知り、その研究成果を通して、日本語、言語に対する理解を深める。	2, 3, 4	*		○		◎	◎	○		
41947	古典文学講義A	・日本文学史を縦に貫流する問題を取り上げて、その展開を追跡する力をつける。 ・広い視野のもとに日本古典文学の特徴やそれを対象とする研究の在り方を追求する力をつける。	2, 3	*		◎		○	◎	○	○	
41948	古典文学講義B	・日本文学史からある時代を取り上げて、同時代の広がりの中で、ジャンルを横断して看取できる共通点について考える力をつける。 ・広い視野のもとに日本古典文学の特徴やそれを対象とする研究の在り方を追求する力をつける。	3, 4		*	◎		○	◎	○	○	
41949	近代文学講義	・近代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。	2, 3, 4	*		◎			◎	○	○	
41950	現代文学講義	・現代文学と社会の関係に注意を巡らし、論理的読解ができる。言葉の細部にまで注意を巡らし、注釈的読解ができる。	2, 3, 4	*		◎			◎	○	○	
41951	比較古典文学	・日本の古典文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して古典文学に関する視野を広める。	2, 3, 4	*		◎		◎	○	○	○	
41952	比較近代文学	・日本の近代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して近代文学に関する視野を広める。	2, 3, 4		*	◎		◎	○	○	○	
41953	比較現代文学	・日本の近代文学と諸国の文学との関連を意識し、その比較を通して近代文学に関する視野を広める。	2, 3, 4		*	◎		◎	○	○	○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						コースのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）											
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問（コース・専門分野）の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。		複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。		ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。		討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。		原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号		授業科目名	学生の学習目標			学年	前期	後期									
41954		文芸思潮	・広く日本近現代文学の文芸思潮に触れ、見識を深める			2, 3, 4	*		◎			◎			◎		
41921		日本語学講義A	個別のテーマを通して日本語の構造、日本語の歴史に関する理解を進展させる。			2, 3		*	○		◎	◎	○				
41922		日本語学講義B	個別のテーマを通して日本語の構造、日本語の歴史に関する理解を進展させる。			3, 4		*	◎		○	◎	○				
41955		古典文学演習A	・古代・中世の文学作品を「書いてあるとおりに読む」力をつける。 ・そのために必要な基本作業を実践して身に付ける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。			2, 3	*		◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	
41956		古典文学演習B	・古代・中世の文学作品を「書いてあるとおりに読む」力をつける。 ・そのために必要な基本作業を実践して身に付ける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。			2, 3		*	◎		○	◎	◎	◎	◎	◎	
41957		近代文学演習A	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。			2, 3	*		◎		○	◎	◎	◎	○		
41959		現代文学演習A	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。			2, 3	*		◎			◎	◎	◎	○		
41958		近代文学演習B	・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。			2, 3		*	◎			◎	◎	◎	○		
41960		現代文学演習B	・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。			2, 3		*	◎		○	◎	◎	◎	○		
41929		日本語学演習A	・個別のテーマ・文献を題材として、現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。			2, 3		*	◎		○	◎	◎	◎	○		
41930		日本語学演習B	・個別のテーマ・文献を題材として、現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する理解を深める。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。			2, 3		*	◎		○	◎	◎	◎	○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー（学位授与方針）						コースのディプロマ・ポリシー（学位授与方針）											
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問（コース・専門分野）の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士（文学）の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果（◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語（独仏中など）を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。		複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。		ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。		討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。		原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号		授業科目名		学生の学習目標		学年	前期	後期									
41961		写本読解演習		・日本古典文学の作品を写本で読む力をつける。 ・そのために必要なくずし字を読む力をつける。 ・諸本を読み比べることで問題を発見する力をつける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。		2、3	*		◎		○	◎	◎	◎			
41962		版本読解演習		・日本古典文学の作品を版本で読む力をつける。 ・そのために必要なくずし字を読む力をつける。 ・諸本を読み比べることで問題を発見する力をつける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。		2、3		*	◎		○	◎	◎	◎			
41963		古典文学講読A		・古典文学の作品を「書いてあるとおりに読む」力をつける。 ・作品の中に問題と答えを見つける力をつける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。		2、3	*		◎		○	◎	◎	◎			
41964		古典文学講読B		・古典文学の作品を「書いてあるとおりに読む」力をつける。 ・作品の中に問題と答えを見つける力をつける。 ・自分の考えをまとめ、発表する力をつける。		2、3		*	◎		○	◎	◎	◎			
41965		近代文学講読A		・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。		2、3	*		◎			◎	◎	◎		○	
41967		現代文学講読A		・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。		2、3	*		◎			◎	◎	◎		○	
41966		近代文学講読B		・近代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。		2、3		*	◎			◎	◎	◎		○	
41968		現代文学講読B		・現代文学作品を題材に、先行研究を整理し、注解を施し、レジュメ等に整理し、わかりやすく発表できる。 また、発表内容を小論文の形式で文章化できる。		2、3		*	◎			◎	◎	◎		○	
41941		日本語学講読A		・現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する個別のテーマ・文献の内容を理解する。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。		2、3	*		◎		○	◎	◎	◎		○	
41942		日本語学講読B		・現代日本語の構造、あるいは日本語の歴史に関する個別のテーマ・文献の内容を理解する。 ・日本語を研究してゆく上で必要な、実証的方法論について知る。 ・調査、考察の成果を的確に人に伝えるためのプレゼンテーション能力を向上する。		2、3		*	◎		○	◎	◎	◎		○	
42002		漢文学概説		・中国古典の各ジャンルと古代文化の特質を理解する。		2、3		*	○	◎	◎	○				○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。		複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省的、文化的アイデンティティを獲得する。		ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。		討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。		原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号		授業科目名		学生の学習目標		学年	前期	後期									
42003		漢文学史A		・中国古代・中世の文語体文学の歴史について学ぶ。 ・中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。		2、3	*		○	◎	◎	○		○			
42004		漢文学史B		・中国近世の文語体文学の歴史について学ぶ。 ・中国古典の読解を通じ外国の文化、思想について理解を深める。		2、3	*		○	◎	◎	○		○			
31001		卒業論文演習A		・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。		4	*		◎		○	◎	◎				
31002		卒業論文演習B		・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。		4	*		◎		○	◎	◎				
31003		卒業論文		・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。		4	*		◎			◎	◎	◎			
11001		人文学序説1		・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。		1	*		○								
11002		人文学序説2A		・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。		1	*		○		○						
11003		人文学序説2B		・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。		1	*		○		○						
11004		人文学序説2C		・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。		1	*		○		○						
11005		学類共通英語1		・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。		2	*			○	○						

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	言語文化学コース (日本語学日本文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)						コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を入びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。						言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。											
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)						コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。						コトバと文学の科学研究 にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。		外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。		複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。		ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。		討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。		原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。	
専門分野のカリキュラム																	
科目番号		授業科目名	学生の学習目標			学年	前期	後期									
11006		学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。			3	*				○		○				